

# いじめを起こさないために

いじめのサインは  
教師が見ようとしなければ  
見えてこない

「いじめ」の構造をしっかりと理解し、サインを敏感に察知するとともに、予防的な対応により未然に防ぐことが大切です！



## 「いじめ」をしっかりとらえるポイント

被害者・加害者・観衆・傍観者それぞれの気持ちの把握

「いじめ」と「ふざけ」の見極め

- ・ 一方向か、双方向か
- ・ 上下関係か、対等関係か
- ・ 一方だけ楽しいか、互いに楽しいか

## 「いじめ」が継続する理由

いじめの実情が見えにくい  
本人や周囲からの訴えがない  
観衆、傍観者がいじめを助長する

# 予防のためのキーポイント

## いじめを起こさない学級づくり

- ・ ルールを守り、お互いを尊重する関係をつくる
- ・ 異なった考えや意見も否定せず、よく話を聴く
- ・ 一人一人のよいところを認め、ほめる
- ・ 一人一人に対して言葉をかける



## 授業では

「わかった!」「できた!」という成就感・達成感が味わえる授業を行う。

## 休み時間には

子どもたちと共に過ごす時間を増やし、人間関係を深めるとともに、子どもたちの様子を把握するよう努める。

## 日常的に

- ・ 一方的なからかい、冷やかし、差別的な言動を許さない。
- ・ いじめに関する話題を取り上げ、いじめを許さない雰囲気をつくる。

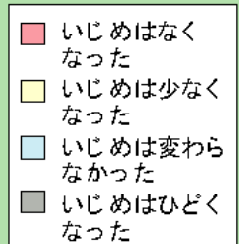
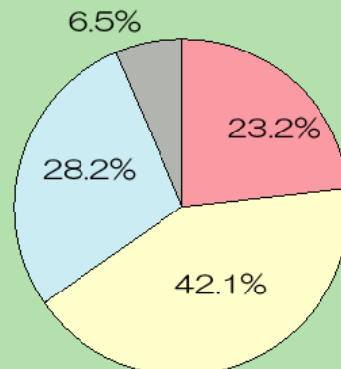
## 子どもの変化を見逃さない

### 子どものサイン

- 身体や表情、言葉遣いなどの変化
- 持ち物の紛失、金銭の使い方の変化
- 成績の下降や忘れ物の増加
- 理由がはっきりしない遅刻や早退
- 保健室や職員室への頻回来室
- 教師が近づくと分散するグループ行動

## いじめ解消に教師が重要な役割

教師がいじめに対応した結果、65.3%が「いじめがなくなった」「少なくなった」と答えています。ただし、6.5%が「いじめはひどくなった」と答えているので、プライバシーに配慮した指導が大切です。



(出典: 森田洋司「日本のいじめ」1999)

## サインを感じたときの教師の対応

### 「そのうち・・・」と思って後回しにせずに、行動を始める。

- ・ 子どもの変化を他の教職員に伝えて、情報を収集する。
- ・ 秘密を守る約束をして、一人一人に様子を聞き、心配していることを伝える。